

SAITAMA 精神保健福祉だより

埼玉県立精神保健福祉センター <http://www.pref.saitama.lg.jp/A03/BE02/top.htm>

埼玉県立精神医療センター <http://www.pref.saitama.lg.jp/A80/BA04/top.htm>

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室818番地2 TEL 048-723-1111(代表) FAX048-723-1550

CONTENTS

1. 障害者スポーツ大会特集	
①平成17年度彩の国ふれあいピック秋季大会	1
Ⅰ 大会の概要と今後の課題	1
Ⅱ 大会に参加して～参加チームの立場から～	3
Ⅲ 大会に参加して～市町村の立場から～	4
②第1回本庄マスターズカップを開催して	5
③今後の精神障害者スポーツの動向について	6
④今後の障害者スポーツ大会の開催予定	7
2. お知らせ・イベント情報コーナー	
①埼玉県精神障害者団体連合会(ボプリ)電話相談のお知らせ	8
②社団法人埼玉県精神保健福祉協会 平成17年度第2回こころの健康講座	8
③鴻巣市合併記念 心の健康フェスティバル in 鴻巣	8

※57号に掲載を予定していた障害者自立支援法に関しては、法の成立が遅れ、未だ制度の基本的内容が決定されていないため、58号に掲載する予定となりました。

No. 57

平成17年12月

障害者スポーツ特集①

平成17年度彩の国ふれあいピック秋季大会

I 大会の概要と今後の課題

精神保健福祉センター 企画広報担当

1. 大会の概要

「彩の国ふれあいピック（埼玉県障害者スポーツ大会）」は、障害者の体力の維持・増進を図り、社会参加を促進するとともに、障害及び障害者に対する理解と身体・知的・精神障害の枠を越えた障害者全体のスポーツ振興を図ることを目的として、平成14年度から開催されています。①全国障害者スポーツ大会の県代表選手選考会を兼ねた「春季大会及びサテライト大会」②レクリエーションを目的とした「秋季大会」に分かれており、②の秋季大会は3障害合同大会として精神障害者も参加することができます。

しかし、障害の枠を越えたスポーツ振興を目的としながらも、第2回大会までは、身体・知的障害者が参加する陸上競技やフライングディスク競技に精神障害者は参加できず、開・閉会式のみ3障害合同でおこない、精神障害者は別会場でソフトバレーボール競技をおこなっていました。それでも、開会式で他の障害者と並んで精神障害者が入場行進をおこなったことは、真の3障害統合へ

の第一歩となりました。

2. 平成17年度秋季大会の開催

第4回全国障害者スポーツ大会の開催後、障害をもつ方が生涯にわたって様々なスポーツ活動に参加できる環境の整備などを目的として、「埼玉県障害者スポーツ協会」が設立され、平成17年度の第3回大会からは、障害者スポーツ協会が彩の国ふれあいピックを主催することになりました。

平成17年度大会は、平成17年10月9日(日)に彩の国くまがやドームにおいて開催されました。今大会は過去の2大会とは異なり、障害者スポーツ協会の目的にあるように、誰もが参加することができるようレクリエーション種目を中心として開催されました。それに伴い、第2回大会まで別会場でおこなわれていた精神障害者ソフトバレーボール大会は終了となり、精神障害者も身体・知的障害と同じ競技に参加することができるようになりました。

また、過去の大会では身体・知的障害者は市町村を通して申し込むことに対し、精神障害者は直接事務局に申し込んでいましたが、今大会では3障害全てが市町村を通して申し込むこととなり、その結果、障害の枠を越え、精神障害者も市町村選手団として参加することができるようになりました。市町村選手団として、他の障害をもつ方と行動を共にし、交流するということがお互いに貴重な体験となったことでしょう。



今大会で実施された競技は①陸上競技（50m、100m、たすきリレーなど）②フライングディスク ③ゴールボール ④ボッチャ ⑤レクリエーションダンスなど誰もが参加しやすいレクリエーションスポーツです。陸上競技やボッチャなど障害種別によって参加者が区分されている競技もありますが、ゴールボールなどは、障害種別に関わらず同じトーナメントで試合をおこない、障害の枠を越え他の障害をもつ方との混合チームでの参加も可能となりました。

今回参加した精神障害者の多くはフライングディスク競技に出場しました。これまで、当県における精神障害者スポーツの振興はバレーボールを始めソフトボールや卓球などが中心でしたが、今後はフライングディスクなどのレクリエーションスポーツの振興も進めていく必要性を感じました。

また、障害の有無に関わらず、会場を訪れた全ての人と一緒に楽しめるレクリエーションダンスもおこなわれました。埼玉県のマスコット・コバ

トンも登場し、「マツケンサンバⅡ」「きよしのズンドコ節」「Believe」などの曲に合わせて体を動かし、会場が一体となって楽しむことができました。



3. 今後の課題

今大会は大会の広報から参加申込、参加種目まで全てが3障害合同の大会として運営され、真の意味での3障害統合となりました。

しかし、参加者数を見ると、過去の大会のソフトバレーボール競技には10チーム以上が参加しているのに対し、今回参加した精神障害者はわずか十数名でした。来年度の開催に向けて、広報の方法やレクリエーションスポーツの普及についての検討が必要であると感じました。

彩の国ふれあいピックに関するお問い合わせ

・ 埼玉県障害者スポーツ協会 ・

TEL : 048-650-0170

ホームページ <http://www3.point.ne.jp/~enjoysports>

障害者スポーツ特集①

II 大会に参加して ～参加者の立場から～

ヒールアップハウス

わたしたちヒールアップハウスは、所内作業の充実と利用者の皆さんの所外活動を大切にしています。ひとつひとつの行事は利用者と協議し決めていきます。運動は大好きで、メンバーの半分は川口スキップウォーカーズとしてソフトバレーボール競技に参加しています。

川口市役所より彩の国ふれあいピック秋季大会の案内を頂いた時は、ちょうど障害者自立支援法がどうなるかと毎日のように話し合っていました。昨年度川口市において開催された全国障害者スポーツ大会（水泳）で、私たちは自主製品販売を通して選手の皆さんとふれあい、選手の皆さんが誇らしげに堂々とされているのを見ていたので、その体験も手伝い、あっという間の参加決定でした。これからは3障害が同じになる、他の障害者さんと一緒に活動できるようになろうとの思いもありました。

では参加者からの感想です。

僕は午後のゴールボールという試合に参加しました。3障害そろってのイベントということで緊張しましたが、いざ試合が始まると何の違和感も無く、無我夢中というか一生懸命なのが相手から感じられ、障害の違いはあっても違和感なく本当に“楽しませてもらったな”と思いました。試合の勝ち負けよりも自然にスポーツを楽しむことができました。このような一年に一度のイベントも出てみて初めてわかる“生きた”体験でした。

（高木）

今回の3障害同一会場競技を手始めに全国障害者スポーツ大会正式参加への運動を強力に進めていただきたいと願いました。家族として応援に参加し一緒に感動を受けました。（家族会）

職員としてもいろいろな心配をしました。

一つに集合時間です。川口駅に6時20分集合。これはそれぞれの家を5時過ぎには出なければなりません。そうなる「夜緊張して眠れなかった」と言う人が続出するのではと懸念されましたが、



不思議とよく眠れたそうです。

今度は他の障害の方と同じバスに乗ることです。音に敏感な方もいるので、もしかして体調が崩れるのではと心配し、万が一に備えてバスの後に自家用車をつけました。しかし、バスの中では意に反して私たちがにぎやかで、同乗の皆さんに反対にご迷惑をおかけしてしまいました。

私たちの作業所はどちらかといえばマイペースでのんびりしています。作業所だけで行動している仲間たちはいつしか内弁慶のように仲間の中なら元気で、外ではその元気が発揮できないのではという不安を持ちました。参加者も他の障害がわからないだけに、必要以上に緊張して不安が多くあったそうです。しかし、それらはすべて勝手な憶測でした。試合を通じての応援の交流、笑顔の交流は一体感となり会場を包み込みました。相手から教えられたことがたくさんありました。ありのままの気持ちで行動をする人から、我慢する力のある人、仲間を見守り励ます力のある人、一人一人が違うということ。それは私たち作業所のメンバーも一人一人が違いそれぞれを大切にしているからこそ感じられた共通の発見だったのではないのでしょうか。

当日参加したからこそ得られた貴重な体験がたくさんありました。それを作業所利用者一同で共有できたことに深く感謝いたします。

障害者スポーツ特集①

Ⅲ 大会に参加して ～市町村の立場から～

川口市障害福祉課 精神担当 遠藤 哲一郎

川口市障害福祉課では、身体障害者・知的障害者・精神障害者の3障害に対し相談・指導・援助を行っています。

精神障害者の担当が配置されたのは平成14年度からで、このときから3障害のサービスができる限り均等になるよう努力しています。

今回の「ふれあいピック」も同様の考えのもとに精神障害者の参加について、地域生活支援センター「ハートフル川口」と「グリーンハウス」の2ヶ所へ、各作業所への周知とセンター利用の参加希望者とりまとめをお願いしました。また、障害福祉課のホームページにも掲載し参加者を募集しました。障害者スポーツの普及啓発に少しは役に立ったかと思えます。

当初は、精神障害者の参加は3団体で30名程の参加が予定されていましたが、施設の都合やメンバーの状態により残念ながらキャンセルがあり、1作業所18名（スタッフ・家族含む）の参加でした。初めての参加なので準備不足もあったかと思えます。

市では、川口から会場までのバスとお昼のお弁当を手配しました。バスとお弁当については以前から身体障害者と知的障害者を対象に行っています。ちなみにバス2台とお弁当90個です。

今回、精神障害者が初めて加わり、3障害のスポーツイベントが行われましたが、今後のあり方について考えることが、いくつかあります。精神障害者が参加する際のルールが必要と思えます。個人の参加ですと状態を把握することも出来ないまま関わることになるので、所属団体がないと関わる上で困難があると感じます。状態の安定して

いる方が参加していると思いますが、その確認をどうするか、何かあった際の連絡先はどうするか、状態が悪くなった際はどうか対処するかなど事前に確認したい事がありますが、それらを市で把握することは難しいことです。いくら自己管理とはいえ危機管理も必要です。

そこで今後の精神障害者の参加の際のルール（案）として、①「精神障害者の参加申し込みは、個人の申込でなく各所属団体で取りまとめ、市を通して行う」、②「所属団体は本人の状態や連絡先を把握（医療機関と調整・家族と調整）したうえで申し込みをする」を提案したいと思います。

また、競技の感想ですが、他障害とレクリエーション的なスポーツ交流を楽しむために又、相手を理解するために必要だと思えますが、精神障害者同士の競技も一つぐらいはあってもいいなと思えます。そのためには精神障害者の参加が増えるようにこの大会を普及啓発することが大切であり、市町村の役目と思っています。

ふれあいピックから障害者スポーツが広まり、障害者の種別を問わず、一緒に参加するイベントがこれかからもどんどん増えてほしいと思えます。



第1回本庄マスターズカップを開催して

精神障害者地域生活支援センターみさと施設長 大野 秀雄

平成17年8月28日（日）に本庄総合運動公園体育館（シルクドーム）にて、社会福祉法人美里会（精神障害者地域生活支援センターみさと）主催の精神障害者バレーボール大会「第1回本庄マスターズカップ（後援：沖電気工業）」が開催されました。

開催のきっかけは、本庄市福祉課の提案からでした。毎年本庄市では「ふれ愛夏まつり」として、高齢者団体と障害者団体が一堂に会しての野外でのイベントを開催していますが、今年はシルクドーム（体育館）の駐車場を利用しての開催が決まり、体育館を活用して精神障害者のバレーボール大会が開催できないかということでした。現在この体育館は、本庄市の協力により、毎週土曜日に地域の精神障害者バレーボールチーム「パワーズ埼玉」の練習場として使用しており、これまでも近隣チームを招待し、他に先駆ける形で交流大会や練習試合を行ってきました。また、試合後は「ふれ愛夏まつり」の野外イベントにも参加できるとあって一石二鳥の事業へと夢が拡大していきました。

そこで、全国障害者スポーツ大会県予選にない新機軸を提案し、チームの参加意欲を促進させることが重要だと考え、東西南北各ブロックから強豪4チームを招待し、県大会では対戦できない「さいたま市代表チーム」、主催者として「パワーズ埼玉」を交えた6チームによる、県予選や交流試合を超えたバレーボール大会を開催することにしました。

私達にとっては、大会に参加することと大会を主催するということはとても意味のあることです。大会に参加することによって「全県のレベルに触れること」、大会を主催するにあたっては「ホスピタリティの気持ちを理解すること」ができるのではないかと思います。チームの仲間と会場に早く来て会場設営をし、参加者を迎えることはす

ばらしい社会体験です。これもこのような大きな大会を企画することによって得られることです。また、競技性を重視するために競技運営を地元のソフトバレーボール連盟にお願いし、快く引き受けていただきました。チームのみんなにとっては色々な方の関わりを体感し、社会体験として多くの学びと地域住民との交流の機会となりました。

当日は、本庄市長からもごあいさつをいただき、時間の許す限りご観覧いただきました。少なからず精神障害者についての理解も広がっていただけたと思います。一方、試合は一生懸命頑張ったのですが、私達のチームは4位という結果に終わってしまいました。優勝は深谷市の作業所を中心に結成されている「ドリーム・桑の実」が、西部地区の強豪「ザ・ロッキー」を破って優勝しました。

以前は「ふれあいピック」の中で精神障害者バレーボール大会が開催されていましたが、今年度からバレーボール競技がなくなり、県大会が唯一の大会となってしまいました。このことを考えると今回の本庄マスターズカップは大きな意味を持つ試みなのかも知れません。私達は、参加された多くの方からご意見をいただき、今後のヒントにしながらスポーツ事業を通じてチームや理解者と共に、地域作りや精神障害者の活動場面が拡大されたらとても素晴らしいことだと思います。



今後の精神障害者スポーツの動向について

埼玉県立大学 高畑 隆

1. はじめに

全国障害者スポーツ大会で精神障害者スポーツ（バレーボール）はオープン競技でした。しかし、平成20年第8回大分県大会からは正式競技になることが決まりました。そこで、障害者スポーツ大会の1つである全国障害者スポーツ大会を正しく理解すると共に、障害者スポーツにおける精神障害者スポーツの足腰を強くする必要があります。

2. スポーツへの参加促進

スポーツの推進では、その人にあった身体活動（adapted physical activity）の推進があり、①医学的リハビリテーションのスポーツ、②楽しみや交流・趣味のスポーツ、③その上での競技スポーツであります。競技スポーツの体験は就労や進学にも結びつく人がいます。そのためには、精神障害者のスポーツ人口を増やして裾野を広げる活動が必要といえます。地域でのスポーツ振興としては、日本体育協会による地域型クラブの推進がなされています。また、高齢者スポーツでは筋肉トレーニングの重要性が言われています。

スポーツ指導者は、競技スポーツですので国際ルールや競技用語を良く理解している「公認審判員」、障害者スポーツ競技ルールを理解している「障害者スポーツ指導員」等の有資格の指導が望まれます。従って、精神保健福祉関係者はスポーツ指導者・教育関係者との連携と協働、選手の精神的側面をサポートする役割があります。今後、スポーツ競技会への参加では事前にスポーツチーム登録、スポーツ選手（アスリート）登録を踏まえた参加が望まれます。即ち、選手やチームは競技組織への参加を基に競技会への参加を行います（組織化）。

3. 全国障害者スポーツ大会

福祉領域では障害者の生活困難を支えるパスポートとして手帳制度があり、身体障害者手帳が57年前（昭和23年）、療育手帳が32年前（昭和48年）、

精神障害者保健福祉手帳が10年前（平成7年）に創設されています。この手帳制度を踏まえた障害者スポーツは、昭和40年第1回全国身体障害者スポーツ大会、平成4年第1回全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）が開催され、平成13年には第1回全国障害者スポーツ大会として統合されました。この大会に参加する選手資格は、「手帳交付」を受けたものとなります。

全国障害者スポーツ大会は国体の一環として開催されています。従って、各都道府県・政令指定都市での選考委員会による選考会が開催され、公費で県選手団の一員として派遣されます。公費による公式の競技大会ですので、選手の名前と顔はスポーツ選手として掲載され、マスコミはスポーツ報道として報道します。これは、障害者スポーツの振興と障害者の社会参加に寄与することになります。

全国大会の開催県は約10年前に決定し、3年前に具体的準備に入り、3000人規模での障害者の全国競技大会として開催します。競技は「正式競技」に、①個人競技の陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリングがあり、②団体競技は、バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボールがあります。競技区分は障害者手帳区分によって行われます。また、大会への参加選手数や役員数も規定されています。

その他に開催県が独自に行うオープン競技があります。今まではこのオープン競技として、精神障害者の団体競技バレーボールが行われています。団体競技の予選会は都道府県・指定都市6ブロック（北海道・東北、関東、北信越・東海、近畿、中国・四国、九州）での開催です。従って、今まで独自の精神障害者バレーボール8ブロックでは、関東と東京・神奈川、北信越・中部ブロックの統合が予想されます。

各スポーツ競技のルールは、主に各競技団体国

際ルールなど健常者が行うスポーツを基本に、障害や事故の心配、障害増悪、理解しやすさでルールを一部変更しての競技が行われます。従って、精神障害者ではバレーボールの国際ルールを基本にボールの種類（ソフト球）、女性を1名以上コート内、ネットの高さなどの変更を行っています。今後は、ネットは中学生女子の2 m10cmでは低い状況になっているので、2 m30cmなどについての検討がなされると思いますので、チーム全員での底力が必要になるでしょう。また、精神障害者では団体競技のバレーボールだけでなく、個人競技のフライングディスクなど他の競技の振興と全国大会への参加が望まれます。

さて、県を代表して全国大会に参加するチームの構成は、公費派遣なので同じ人が何回も参加するのではなく、より多くの人の参加の推進があります。例えば団体競技では3分の1を新人にするなどの考え方があります。

従って、単独施設チームではなく県選抜チーム、あるいは基幹チームに他選手が参加するチームづくりが望まれます。

選手は都道府県代表として知事から派遣辞令、国体選手と同じユニフォーム、派遣費・強化費が支給されます。全国障害者スポーツ大会への参加

では、大会3日間の開催に合わせ、前後2日間計5日間程度、県選手団として同一行動が求められます。正式競技化ではスポーツの競技性を基本にした、精神障害者本人と関係者の社会的体力が求められることとなります。

4. おわりに

日本障害者スポーツ協会は、日本体育協会傘下のスポーツ競技団体で、障害者スポーツの振興を行っており、様々な競技でチャンピオンシップが行われています。精神障害者もアスリートとして国際大会への参加促進があり、例えばジャパンパラリンピックへの参加もあります。また、全国規模でのバレーボールのチャンピオンシップ大会の開催も望まれます。そして、埼玉県では障害者スポーツ協会が3障害合同のスポーツ大会を開催しています。県内での障害者スポーツ競技の情報を積極的に活用して上手に参加してください。一方、スポーツが得意でなくても都道府県障害者技能オリンピック（アビリンピック）の接客種目への参加も望まれます。

皆さんの協力で感動を与え、生きる力、社会参加の一助となる障害者スポーツ・精神障害者スポーツを推進しましょう。

障害者スポーツ特集④

今後の精神障害者スポーツ大会の開催予定

① 第6回全国精神障害者スポーツ（バレーボール）関東ブロック大会

平成17年12月8日（木） 栃木県さくら市氏家体育館にて開催
 ☆埼玉県代表「ジャンクション埼玉」 ☆さいたま市代表「ソウルフルズ」

② 平成17年度埼玉県精神障害者バレーボール東西南北ブロック大会

北部地区	平成17年11月11日（金）	本庄総合公園体育館シルクドーム
西部地区	平成17年11月25日（金）	狭山市民総合体育館
東部地区	平成18年2月17日（金）	久喜市総合体育館
南部地区	平成18年3月17日（金）	川口市立芝スポーツセンター

ポプリ電話相談のお知らせ

埼玉県精神障害者団体連合会（愛称ポプリ）会長 有村 律子

埼玉県精神障害者団体連合会（愛称ポプリ）は1993年2月に結成された埼玉県内精神障害者当事者団体（患者会）の連合会です。個人会員などを含め毎月会報を750部ほど発行し、「ひとりぼっちをなくそう」をスローガンに精神障害者の仲間作りや交流の場をサポートしています。毎月ミニ集を開き、埼玉県障害者交流センター（以下障害者交流センター）で役員会を行っています。役員会でどんなことをするか民主的に決めながら運営しています。

結成されて10年以上がたちますが、長い間個人の家で事務局を開いてきました。先日障害者交流センターに念願の事務局デスク・電話・FAXを開設することが出来ましたので、御報告したいと思います。

私たちポプリは、長く埼玉県障害者協議会に属し、県内障害者団体との協働をしてきました。他の団体は障害者交流センター内団体交流室（障害者団体が詰めている部屋）に事務局を開設していることを知り、施設使用・電話開設の申し込みをしました。当初は、スペースの問題などから破談となりましたが、きょうされん埼玉支部さんのご好意もあり、デスク一つぶんのスペースがいただけました。埼玉県精神障害者家族会連合会（のぞみ会）と背中合わせであり、とってもいい場所を使用することが出来ました。

デスクは一つ使用可能になったわけですが、電話もFAXもない日が約5ヶ月も続きました。それは、団体交流室

の入り口まで電話回線は来ていたのですが、ポプリのデスクまで電話回線を引く工事が大変だったからです。内装工事や電話線の工事にはポプリ会員が立ち会い、費用も会費負担し電話・FAXを取り付けることが出来ました。電話加入権や電話機の寄付の話もありましたが、これから長い付き合いになるものですから、ポプリ独自で購入しました。電話機は役員会が終わった後、有志で大宮まで買いに出かけました。一番安い電話を買いました。

今度はデスク当番です。電話の開設時間を会報誌（ポプリ通信）に載せ、役員が交代で問い合わせから電話相談まで幅広く対応しています。病気を抱えながらの活動ですので、曜日を固定するまでには大変でした。現在は毎週水曜日に開設しています。初めはどんな電話が来るかドキドキでしたが、幅広い電話がかかってきます。先日など長野県からの講演依頼があり、来年の三月に埼玉県での精神障害者当事者活動について役員3人で話しに行くことになっています。今は一日に一件くらいの電話相談が入っています。今は、そんなに多い本数ではないですが、コツコツ活動を続けていきたいと思っています。

ひとりぼっちの精神障害者の方がいらっしゃったら、ぜひポプリの電話をアナウンスしていただけたらと思います。当事者が電話対応していますので、安心しておかけください。

● **ポプリ電話相談（毎週水曜日 午後1時～5時）** ●

048-822-9369

※話中やトイレなどで席を立つ場合もあります。
つながらない時はお手数ですが少したってからおかけください。

イベント情報

（社）埼玉県精神保健福祉協会40周年記念「平成17年度第2回こころの健康講座」

- ◇日時：平成18年1月14日（土） 13時～17時（12時30分開場）
- ◇場所：さいたま市民会館おおみや 小ホール（大宮駅より徒歩15分）
- ◇内容：特別講演「今後の精神保健医療福祉の動向について」
厚生労働省大臣官房厚生科学課科学技術調整官 保健学博士 伊藤弘人氏
- ◇定員等：270名（入場無料・申込不要）
- ◇問い合わせ：（社）埼玉県精神保健福祉協会事務局 TEL 048-723-5331

鴻巣市合併記念 心の健康フェスティバル in 鴻巣「誰かに出会った。何かが変わった。」

- ◇日時：平成18年2月18日（土） 13時～16時（12時30分開場）
- ◇場所：鴻巣市文化センター クレアこうのす 大ホール
- ◇内容：①講演と絵本の読み聞かせ 直木賞作家 志茂田景樹氏
②社会復帰施設利用者等による体験発表 など
- ◇定員等：800名（入場無料・申込不要）
- ◇問い合わせ：精神保健福祉センター 企画広報担当 TEL 048-723-1111